

フランス報告

福井工業大学原子力技術応用工学科 短期留学生一同

平成 26 年 3 月 2 日から 7 日にかけて、教員 1 人、学部生 5 人でフランス短期研修へ行ってきました。フランスの原子力教育研修機関、原子力研究機関、電力会社等を訪問し、施設見学や講義を受けてきました。ヨーロッパの原子力事情を学ぶことができ、非常に良い経験となりました。また、ヨーロッパの学生との意見交換もできました。

フランス原子力のメッカ：マルクール

アヴィニョンの北 30km にあるマルクールでは、フランス原子力庁 (CEA) の原子力施設を見学しました。フランス原子力のメッカとも呼べるこの地区は、世界で唯一の MOX 燃料の製造工場 (メロックス) や放射性廃棄物処理施設など、原子力における重要施設があります。高レベル廃棄物処理研究センター (アタラント) 等の研究施設では、様々な機器、設備を見学することができました。



ヨーロッパの学生と交流：カダラッシュ

マルセイユの北 60km にあるカダラッシュは、フランスの原子力研究の中心地です。最初に、原子力科学技術学士院 (INSTN) カダラッシュ校を訪れ、学生交流をしました。カダラッシュ校は原子力の専門技術者を育成する学校です。その後、実験用原子炉や新型原子炉の建設現場等を見学しました。日本では、見る事が出来ない施設ばかりでとても貴重な経験でした。



中世の城郭都市：アヴィニオン

パリの南 660km にあるアヴィニオンの街は、3月にもかかわらず昼は少し蒸し暑い感じがしましたが、夕方になると気温が下がり、少し肌寒く感じました。中世の城郭都市が残された街並みは世界遺産に登録されており、眺めているだけでも風情を感じることが出来ます。壁に囲まれた街中の広場で子供たちがはしゃいでいたのは忘れられない光景です。また機会があれば訪れてみたいです。



フランスのエネルギー事情：パリ

EDF とはフランス電力会社のことで、国有の電力会社です。現在、フランスでは 58 基の原子力発電所が稼働中で、これにより国内の電力の約 80%を賅っています。また、ドイツなど多くの国に電力を輸出しています。さらに欧州加圧水型炉(EPR)が現在建設中です。EPR は安全性向上と発電能力の強化を目的とした原子炉のことです。今回の訪問でフランスのエネルギー事情について詳しく学ぶことができました。



花の都パリ

関西電力パリ事務所を訪問するまでの間に凱旋門を見てシャンゼリゼ通りを歩きました。平日の昼でしたが通りにあるカフェはどこも満員で、改めて日本との違いを感じました。パリの街にはいたるところにメリーゴーラウンドがありエッフェル塔の近くでも二つ見かけました。親子が楽しそうに乗っていたのが微笑ましかったです。危険もなく、美しい彫刻とおいしい食べ物、愉快的な国民性が溢れる街でした。

